



平成 16 年 10 月 8 日

各 位

会社名 イフジ産業株式会社
代表者名 代表取締役社長 藤井 徳夫
(登録銘柄・コード番号 2924)
問合せ先 常務取締役 経営企画室長
仁田坂 功
電話番号 092-938-4561 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成16年8月3日の第1四半期財務・業績の概況発表時に公表した平成17年3月期中間(平成16年4月1日～平成16年9月30日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成17年3月期中間業績予想(非連結)の修正(平成16年4月1日～平成16年9月30日)
(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	3,414	123	146
今回修正(B)	3,732	67	110
増減額(B-A)	318	55	36
増減率	9.3%	45.2%	24.8%
前期(平成16年3月中間期)実績	3,263	273	148

2. 中間業績予想修正の理由

当社においては、当期の期初は今年2～3月に発生した鳥インフルエンザの影響で、ユーザーの殺菌卵に対する需要の高まりにより好調に推移しましたが、養鶏業界においては、数年来の低卵価による経営の行き詰まりや鳥インフルエンザによる消費不振が相まって、ひな導入の抑制や廃業などで飼養羽数が減少したため、鶏卵生産量も減少しました。(1～6月対前年同期比1.4%減)

例年5月以降は気温が上昇し鶏卵の消費は減退しますが、今年は上述の理由により生産量が減少したため、市場に出回る鶏卵が減少し、当社への入荷量は、定期の加工用原料卵が減少したことに加え、スポットの買付け依頼も大幅に減少しました。上半期においては、当社が持つ需給調整機能が生かせませんでした。

損益面では、販売数量は前年を上回って推移しておりますが、鶏卵市況の激変に伴う販売価格改定交渉が遅れていることや原料の買付け価格が大幅に上昇しており、いわゆる製品安の原料高という状況となったことや、京都工場の償却負担が増加したことなどにより、販売価格と売上原価の幅が大幅に縮小しております。このため、当初予定の利益確保が難しい見通しとなりました。

3. 通期業績予想について

平成17年3月期(平成16年4月1日～平成17年3月31日)の業績予想につきましては、現在見直し作業を行っており、11月9日に予定している中間決算発表時にお知らせいたします。

上記の予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき、当社で判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績が記載の予想と大幅に異なる結果となる可能性があります。

以上